

# 第一回全国同人雑誌最優秀賞決定

全国同人雑誌振興会・文芸思潮による第一回全国同人雑誌最優秀賞の選考会が八月一八日奥多摩の憩山庄で行なわれました。

全国からの事前投票者二一名をもとに、当日参加選考委員一八名、特別選考委員七名により、候補作「壺中美人」(高下俊哉／『空飛ぶ鯨』6号)、「どこかでなくした左の世界」(古澤崇／『じゅん文学』45号)、「乙姫通り」(宮崎眞弓／『いかなご』2号)、「エスプレッソが冷めたら」(水木怜／『照葉樹』2号)、「ばら屋敷」(名村和実／『海牛』26号)、「両手にありがとう」(本城確／『相模文芸』14号)の作品について激しい議論が交わされました。それに基づいた投票の結果、第一回全国同人雑誌最優秀賞は名村和実「ばら屋敷」(『海牛』26号)に決定いたしました。

ここに決定とその内容を報告するとともに、賞状・記念トロフィー・賞金五万円を贈り、受賞作品を賞揚したいと思います。

今後も全国の同人雑誌の中から優れた作品が生まれることを祈願し、全国同人雑誌振興会・文芸思潮に寄せられてくることを期待しております。第二回の全国同人雑誌最優秀賞対象の同人雑誌は二〇〇五年一月一日より二〇〇八年六月三十一日までの発行の同人雑誌とさせていただきます。奮って御応募ください。

なお、現在全国同人雑誌最優秀賞に親しみやすい名前を募集しております。次回はその名前で呼称したいと思えます。御期待ください。

## 全国同人雑誌最優秀賞「ばら屋敷」名村和実(『海牛』26号)

### 受賞の言葉

名村和実

「全国同人雑誌最優秀賞」に選ばれるとは、思ってもみませんでした。有難うございます。

全国に同人雑誌がどれくらいあるのだろうと『文藝年鑑』を調べてみますと、小説評論部門だけで四八七あります。この数字は、まだまだ日本の文化を支える礎であると言えるでしょう。文学界編集部同人雑誌係に寄せられる同人雑誌の数は、数年前までは一〇〇冊以上送られてきていたと思いますが、今は七〇冊程度ようです。それでも毎月、相当の作品が生み出されています。

年金受給年齢を引き上げて、ある程度の年配者にも、もう少し働いてもらわなければならないという世の中です。同人雑誌作家は高齢化しているといわれますが、その高齢化こそがエネルギーではないかと思うのです。

また、同人雑誌は、よく眺めてみると、若い方々が意外と多く、文芸熱も高く現代の風潮をよく勉強しています。年配のエネルギーも若い人達の文芸熱も、同人雑誌の中にまだまだ埋もれています。そうした人々や作品を発掘するため、同人雑誌作品を対象とした全国的な「賞」があってもいいのに、と前から思っていました。中部ペンクラブの「文学賞」がそれですが「中部圏に籍を置く同人雑誌に発表された短編小説」となっていて中部圏が対象です。



### 名村和実

なむら かずみ

1944年生まれ 鈴鹿市出身

1997年「太宰治論」などで三重県文学新人賞受賞(評論部門)

2001年 小説「手廻女山行行」で中部ペンクラブ文学賞受賞

短編小説集『ジギ谷』

中部ペンクラブ副会長

文芸誌「海牛」「文芸中部」

「宇宙詩人」

全国の同人雑誌を対象とした「賞」が出来てもいいと思っていたとき、文芸思潮の、このたびの企画を知りました。喜んで参加させていただいたわけですね。こういう賞が企画されたということが、最も嬉しいことです。その第一回に選ばれ二重に嬉しく思います。今後、もつともっと優秀な作品が受賞し、同人雑誌文芸が文化の牽引力になっていくよう賞の発展をお祈りします。同時に、それに負けない作品を書いていきたいと思えます。